

## 航空関連

## AVIATION NEWS

## 新関空会社住田氏、国際線LCCを積極誘致 スクートやライオンエアなどに就航働きかけ

新関西国際空港会社執行役員の住田弘之氏は、日本インバウンド・メディア・コンソーシアム(JIMC)が7月9日に都内で開催した「第2回インバウンドシンポジウム」内の基調講演で、「成功する空港のLCCシェアの目安は3割と見ている」と語り、改めて関空への国際線LCCの誘致を促進し、発着便数に占めるLCCシェアを引き上げていきたい考えを示した。今後はエアアジア(マレーシア)のほかスクート(シンガポール)、ライオンエア(インドネシア)など、東アジアのみではなく東南アジア勢にも就航を働きかける。近距離LCCでは春秋航空(中国)やジンエアー(韓国)などにも働きかけていく。

今回のシンポジウムの副題は、「進化するFIT! LCC時代を迎えたインバウンドの現場はどうなっているのか?」というもの。LCCの日本路線拡大に伴い増加しているFITの訪日客について議論した。プログラム内では住田氏による基調講演のほか、「リピート顧客を増やすためのブランディング戦略」がテーマのパネルディスカッションなどが開催された。

関空は日本における最大のLCCハブ空港を標榜し、国内空港の中でも先陣を切って本格的なLCC専用ターミナルの建設に着工、供用を開始した空港だ。現在の関空発着運航便数に占めるLCCの割合は17%。2014年内には全運航便数に占めるLCCの割合を、25%に拡大させることを目標に掲げている。

### 訪日客対応、ムスリム受入強化 LCC旅行のモデルコース提案

住田氏は円安のほか、関空へのLCCの路線拡大にともない、関空からの訪日外国人の数が全国平均を上回る勢いで伸びている

ことを説明した。このため、Wi-Fi設置箇所の拡大や、ムスリムに向けた祈祷室設置など、今後も関空における訪日客に向けたサービスを、一層充実させていく考えを示した。

また住田氏は、関空が訪日客に強い要因のひとつとして、空港から100キロ圏内に、訪日外国人に好まれる人気観光スポットが点在していることを紹介した。住田氏は今後、グランフロント大阪や、あべのハルカスなどの新スポットも訪日客の人気を呼ぶ可能性が高いことから、新関空会社として関西広域連合や大阪観光局などと「オール関西」として連携し、関西一帯の訪日プロモーションに一層力を入れていく方針を示した。

今後の具体的なプロモーションの方向性としては、観光フリーペーパー「good Luck Trip 関西」のタイ語版を発行するほか、現地旅行雑誌を招聘してのファミトリップを開催し、LCCを活用した関西旅行のモデルルートを提案する。

現状では、関空にはピーチ・アビエーション(APJ)を始めLCCが8社乗り入れており、海外11都市に路線が開通されている。LCCの国際線の運航便数は週120便、一方国内線LCCの運航便数は1日28便という数。国際線LCCの方面別便数は、韓国が週60便と大半を占め、続けて台湾・香港が週21便、アジアが週25便、豪州が週14便となっている。

住田氏は、関空がこうした豊富なLCCの供給を活かすため、バスや電車などでの大阪などからのアクセスを改善するなどの取り組みを進めていることを紹介した。LCCは深夜・早朝時間帯の発着が多いことから、専用ターミナルには24時間営業のコンビニや飲食店を設定した。またバスの運行時間も調整したという。

## ANA、フィリピン航空へ出資協議中 アジア戦略の一環、エミレーツも関心

ANAホールディングスは、フィリピン航空への出資やコードシェア等、提携関係を結ぶことを検討している。これはフィリピン航空に49%出資しているサンミゲル・コーポレーションが、フィリピンの証券取引所の適時開示情報でも明らかにしたもので、ANAはアジア戦略の一環で、フィリピン航空への出資を含めて、サンミゲル・コーポレーションらと提携を模索していく。

また、サンミゲル・コーポレーションによれば、フィリピン航空への出資は、ANAと共にエミレーツ航空も関心を寄せているとのこと。サンミゲル・コーポレーションは、オープンに協議していく考え。

### エジプト航空、成田線運休 関空-カイロ線は継続

エジプト航空は7月14日～8月28日まで、成田-カイロ線を運休することを決めた。カイロ発便運休期間が7月14日～8月27日、成田発便運休期間が7月15日～8月28日。外務省の渡航情報発出にともなう、需要の減少を受けての措置。成田線は月・水の週2便を運航していた。

一方、同じく週2便(金・日)で運航している関空-カイロ線は、カイロ経由での欧州への渡航需要が多くを占めることから運航を継続する。既に運休期間中の成田発着便を予約している旅客に対しては、関空線への振り替えを提案していく。

エジプト航空は2011年2月に現地の政情不安を受け日本路線を運休して以降、2012年4月に成田線を、2012年12月に関空線を再開したばかり。

### 太田国交相、アジアナ事故に 「重大な関心持って取組み」

国土交通省の太田昭宏大臣は7月9日に開いた閣議後会見で、米国・サンフランシスコで発生したアジアナ航空機の着陸失敗の事故について言及、アジアナ航空が日本へ乗り入れている航空会社であること、事故にあった機材が日本の航空会社が多く保有するボーイング777型機であったことか

ANAとしても、フィリピンはアジア域内でも今後大きな発展が期待できる魅力的なディスティネーションのようだ。というのも、マニラ空港の近傍には、大型コンベンションセンターや大規模ショッピングセンター、カジノ、ホテル等の複合施設が開発されているほか、フィリピン経済の成長も著しい。加えて、世界有数の美しいビーチ・リゾートも存在していて、ビジネス・観光需要双方のポテンシャルが見込まれる。現在、ANAは成田-マニラ間を週1往復便のみ運航しているが、今後フィリピン航空との提携が実現すれば、日本-フィリピン間の流動が大きく拡大することも期待できる。

ら「重大な関心を持って取組みをしなければならぬ」と述べている」と述べた。

この事故は7月7日にソウル発サンフランシスコ行きのアシアナ214便が、着陸時に機体を損傷して炎上。乗員16名、乗客291名のうち乗客2名が死亡し、多数の負傷者を出した。この事故には米国家運輸安全委員会(NTSB)が調査に当たり、原因究明を急いでいるところ。太田大臣は国交省では現在のところ、NTSBによる調査状況を踏まえながら、航空局においては機体製造国と運航国である米国および韓国の当局から、必要な情報を収集している段階だと説明し、適切に対応していくとした。

現在のところ、事故機は副機長の操縦による慣熟飛行の最中だったとされるが、原因の詳細については調査中だとした上で、副操縦士の慣熟飛行と事故の関連について「適切なライセンスを保有する副操縦士が、適切な者の監督の下に航空機の操縦を行うことは、日本も含めて広く一般的に行われている」と認識を示し、現状として制度に問題があるといった認識はない、と説明。

また日本の航空会社に対しては、今回の事故を踏まえて、今後も万全の体制が取られるよう、注意喚起を図るとした。

### 中国南方航空

#### 新潟-ハルビン線週4便に増便

新潟県はこのほど、中国南方航空が7月15日から新潟-ハルビン線を週3便から週

## 成田夏期旅客、中韓低迷で海外旅行マイナス 訪日客円安で増、ピーク出国10日、入国17・18日

成田国際空港会社が発表した夏季繁忙期(7月12日～9月1日)52日間の旅行動向によると、出入国旅客数は前年同期比0.2%増の391万1900人と前年と変わらないものの、日本人の海外旅行者数は欧州のほかハワイなどリゾート地の方面の人気の高い反面、中国・韓国方面が低調で0.7%減の199万9500人と前年下回り、一方で、訪日外国人旅行は円安を背景に1.1%増の191万2400人と推計した。

ピークは出国が8月10日(土)で4万8800人、入国が8月17日(土)と8月18日(日)がともに5万1700人。

ターミナルビル別では、第1ターミナルビルが合計0.8%減の239万2900人で、内訳は出国2.2%減の122万1900人、入国0.8%増の116万1826人。第2ターミナルビルが合計1.6%増の151万9000人で、内訳は出国1.7%増の77万7600人、入国1.6%増の74万1400人。

## GIA、14年夏スケで羽田-ジャカルタ就航検討 昼間枠活用、機材候補に新機材B777-300ER型機

ガルダ・インドネシア航空(GIA)は、2014年夏期スケジュール中に羽田-ジャカルタ線に就航することを検討する。先日の2国間航空交渉で発着が可能になった、羽田昼間枠を活用する。使用機材の候補にはA330型機のほか、同航空が7月2日に初号機を受領した新機材B777-300ER型機も上がっている。

現在同航空は深夜早朝枠を活用し、羽田-デンパサール(バリ)線にデイリーで就航している。レジャー需要で好調な業績を残す同路線に対し、羽田-ジャカルタ線ではビジネス需要に焦点を当てる。成田発着のジャカルタ線-デンパサール線の運航も維持する考えで、首都圏-インドネシア間を4路線体制で結ぶ考え。

また、同航空は今年10月に関空-ジャカルタ線に週4便で就航する。GIAでは同路線への就航は「決定した」と話しており、羽田-ジャカルタ線への就航を決めた場合で

4便に増便すると発表した。月・水・金・日曜日に運航する。さらに中国南方航空は、7月20・30日と8月10・20日に同路線に1日1便ずつ臨時便を運航する。この臨時便のダイヤは新潟12時10分発→ハルビン13時35分着、ハルビン8時00分発→新潟11時10分着。

### ティーウェイ

#### 佐賀-仁川線は週3便、737使用

韓国LCCのティーウェイ航空が今年12月に就航を予定する、佐賀-仁川線の運航便数は週3便で、使用機材は189席のB737型機であることがわかった。ダイヤは現在調整中。佐賀県では同航空に対し、就航から3年間に渡り運航経費を総額1億5000万円支援する。

ティーウェイ航空は、佐賀空港が12月に予定する国際線専用ターミナルの供用開始に合わせ、同路線に定期便を就航する。佐賀県では今後も、香港や台湾など東アジア拠点の航空会社の誘致に向け、働きかけを継続していきたいと話す。

また、国際線専用ターミナルが供用開始されれば、春秋航空が現在プログラムチャーター便として運航している佐賀-上海線も定期便に移行することが可能になるため、県では同航空に対しても定期便への移行を働きかけていく方針だ。

### エティハド航空

#### 13年上半期は過去最高業績

エティハド航空(ETD)2013年上半期(1-6月)の業績は、旅客収入が前年同期比13%増の18億米ドル、貨物収入も含めた総収入は19%増の25億米ドルとなり、過去最高の成績を達成した。有効座席キロ(ASK)は12%増、有償旅客キロ(RPK)は15%増を記録し、搭乗率は2ポイント増の78.9%を記録した。

第2四半期(4-6月)の旅客収入は、8%増の9億2100万米ドル。総収入は7%増の13億2700万米ドルを計上した。ASKとRPKは共に13%増を記録し、搭乗率は0.3ポイント減とほぼ前年並みの77.3%を記録した。昨年と比較し、保有機体数は11機増の78機体制に増強した。

第2四半期はエア・ベルリンとのコードシェアが好調に推移したこともあり、好業績を残した。また新たにセルビアのJat Airwaysとのコードシェアを開始したのも第2四半期のこと。第3四半期にはエア・カナダや南アフリカ航空、ペラルーシのベ

も、関空-ジャカルタ線への就航計画に変更はないとした。機材にはA330-300型機を使用する。

同航空最新機材のB777-300ER型機は、ジャカルタ-ロンドン線など長距離路線のほか、ジャカルタ-ジェッタ線などビジネス需要が見込まれる路線に投入する。羽田線への投入もこの一環として検討しているという。既報の通り777は、今年8～9月に成田-ジャカルタ線-デンパサール線の一部便にも試験的に導入する。

B777-300ER型機の総発注数は10機。今年4機受領し、2014年から2015年にかけて毎年3機ずつ受領する。GIAでは今年受領する初号機をジャカルタ-ジェッタ線に、2号機を成田線に、3・4号機をシドニー-ジャカルタ-ロンドン線に投入するとしている。

同機材には、GIA初導入となるファーストクラスシートも搭載している。

ラヴィアとの提携を開始する。

上記各社も含めたETDのコードシェア提携先は45社となり、就航地は350都市にのぼる。ETDでは、ETDと同じくアライアンスに加盟していないエミレーツ航空や、今年中にワンワールドに加盟するカタール航空など、他の中東エアラインと比較しても、自社が「最も包括的なネットワーク」を提供していると説明する。

第2四半期には、アブダビ発着でアムステルダム線-ベオグラード線のデイリー運航を開始したほか、アビダビ-サンパウロ線の週3便での運航を開始した。また、提携を結ぶJat Airwaysの株式取得について、セルビア政府と協議を開始したほか、ヴァージン・オーストラリアの取得株式を10%から19.9%へ増やすことについて、豪関係機関から認可を取得した。

### ルフトハンザ

#### 「手荷物自動受付機」追加設置

ルフトハンザドイツ航空(DLH)は、フランクフルト、ミュンヘン、ハンブルクの各空港に、「手荷物自動受付機」を各空港合計で39台追加設置した。カウンターの列に並ぶことなく自身で手荷物を預けることができるシステムで、オンラインや携帯端末、自動チェック機で出発時刻前23時間以内に搭乗券を受け取った搭乗者が利用できる。

同システムは2012年、数ヶ月にわたりミュンヘンとフランクフルトでテストしていたもの。システムを通じ取り扱った受託手荷物数は、累計で約64万個という。各空港の追加設置場所と設置台数は、フランクフルトがT1出発ホールBに8台、出発ホールAに8台。ミュンヘンがT2出発ホール南口に13台、北口に6台。ハンブルクがT2チェックインRow7・8の端に4台。

手荷物自動受付機を利用し受託手荷物を預け入れる際は、まず(1)手荷物をコンベアのベルトに乗せる。続けて(2)搭乗券に印刷されているバーコードをスキャナーに読み取らせる、(3)自動受付機が印刷した手荷物用シール式タグを受け取り、同タグを手荷物に取り付ける、(4)手荷物が空港施設コンベアへと自動で運ばれる、(5)印刷された手荷物引換証を受け取る。

### アエロフロート

#### マンUとスポンサー契約締結

アエロフロート・ロシア航空(AFL)は、英サッカープレミアリーグのマンチェスター・ユナイテッドと、複数年にわたるグローバル・スポンサーシップ契約を締結した。